

市町村が戦略的に他地域へ取組の波及を図った人・農地プラン

いっかたい

(岩手県岩手町一方井地域(H24.6作成、H27.3見直し))

《概要・データ》

地域の特徴	農家数は380戸、農地面積は約1,077haの地区。水田地帯は平均区画面積は30a。畜産農家が多いほか、葉たばこ農家も多い。
中心経営体	個別経営75名、法人3法人、集落営農3組織
出し手となる農業者	71名《提供予定農地面積31ha》
農地集積	現状(H23)345ha(集積率32%)→目標(H28)377ha(集積率35%)

《特徴的な取組》

- 当該地域の一部に位置する戸数28戸の地区(旧一方井地区)では、集落営農法人及び認定農業者の中心経営体としての意識が高かったことから、町が主体となってプラン作成を進め、事例作成後はモデル地区として他地区への普及を推進(事例をPowerPoint化)した。
- 見直しに当たっては、岩手町主導で旧一方井地区外からの入り作農業者に声かけを行い、「担い手説明会」を開催して入り作農業者をプランに位置付けるとともに、農地中間管理機構の活用について話し合った結果、旧一方井地区の農地約43haのうちプランの出し手に位置付けられた農地を含む約25haが、農地中間管理機構を通じて中心経営体に貸付けられた。
- 旧一方井地区の取組の結果等から、複数の地域の中心経営体となっている担い手農業者への農地利用集積を円滑に進めるためにはプランの統合が必要との判断に立ち、平成27年3月に周辺10地区のプランを統合し、新たに一方井地域として見直しを行った。

《プラン作成・見直しの経緯》

- 平成24年6月旧一方井地域のプランを決定(岩手県第1号)
- 平成26年2月及び10月にプランを見直し
- 平成27年3月周辺10地区を統合し、新たに一方井地域としてプランを見直し



営農組合が地域、学校と連携した食育活動

(岩手町位置図)

